

FINANCIAL HISTORY

GOLD : CURRENCY : TRUST

金本位制とは何だったのか

金がお金の価値を保証していた時代。その仕組みと崩壊、そして「通貨の価値とは何か」という問いが今も続いている。

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

WHAT HAPPENED

金本位制の仕組み --- 金とお金の交換保証

金本位制とは、通貨の価値を一定量の金に固定する制度だ。

たとえば「1ドル=金1/20.67オンス」と定めれば、紙幣を銀行に持っていけば、いつでもその量の金と交換できる。政府や中央銀行が保有する金の量が、発行できる紙幣の量の上限を決める。

これは通貨に対する究極の信用保証だった。紙幣は単なる紙ではなく、金庫に眠る金の「引換券」だったのだ。

19世紀のイギリスが金本位制の中心にいた。1816年に法的に金本位制を確立し、基軸通貨としてのポンドの信用を世界に広げた。

WHY IT SPREAD

なぜ金本位制が広まったか

金本位制が世界に広まった理由は、国際貿易にある。

異なる国の通貨同士が信頼できる交換比率を持つためには、共通の基準が必要だった。金はその基準になった。各国が自国通貨を金に固定すれば、通貨間の交換比率は自動的に決まる。

- 為替の安定 --- 金本位制の下では為替レートが事実上固定されるため、貿易業者は為替リスクを心配する必要がなかった
- 財政規律 --- 政府が紙幣を無制限に刷れないため、放漫財政への歯止めとなった
- 国際的信用 --- 金本位制を採用すること自体が、その国の経済的信用のシグナルだった

しかし金本位制には本質的な制約があった。経済が成長しても、金の供給量は簡単には増えない。経済の柔軟性と金の有限性の矛盾は、やがて制度を崩壊させることになる。

JAPAN'S GOLD STANDARD

日本の金本位制 --- 1897年採用、1931年離脱

日本が金本位制を採用したのは1897年（明治30年）。日清戦争の賠償金（約3億6千万円・金換算）を元手に、金準備を確保して実現した。

金本位制の採用は、日本が国際金融市場に本格的に参入するための入場券だった。欧米の投資家に対して「円は金で裏付けられている」と示すことで、外債発行と国際取引の信用を獲得した。

しかし第一次世界大戦（1914年）で金本位制は各国で一時停止される。戦後、日本は金本位制への復帰（金解禁）を模索するが、タイミングが最悪だった。

1930年1月、井上準之助蔵相が金解禁を実施。しかしその直後に世界恐慌の波が日本に到達し、金が大量に海外へ流出。日本経済は深刻なデフレに陥った。

TURNING POINT

高橋是清の決断 --- 金輸出再禁止と積極財政

1931年12月、大蔵大臣に就任した高橋是清は、就任直後に金輸出を再禁止した。事実上の金本位制離脱だ。

高橋の政策は大胆だった。

- 金本位制を離脱し、円を切り下げ（円安誘導）
- 日銀による国債の直接引き受けを実施
- 積極的な財政支出で景気を刺激

結果として、日本は世界恐慌からの回復が主要国の中で最も早かった。高橋の政策は、後にケインズが体系化する「不況期の財政出動」を、理論に先んじて実践したものとして評価されている。

高橋是清は「日本のケインズ」と呼ばれる。金本位制という制約を外し、通貨と財政の裁量を取り戻したことで、日本経済を恐慌から救った。

GLOBAL COLLAPSE

ブレトンウッズ体制とニクソン・ショック

第二次世界大戦後の1944年、連合国はブレトンウッズ体制を構築した。ドルだけが金と交換可能（1オンス=35ドル）で、各国通貨はドルに固定される「金ドル本位制」だ。

この体制は四半世紀にわたって世界経済の安定を支えた。しかしアメリカのベトナム戦争の戦費膨張と対外赤字の拡大により、ドルの信認が揺らぐ。

1971年8月15日、ニクソン大統領はドルと金の交換を一方的に停止した。「ニクソン・ショック」だ。

これにより、人類史上初めて、主要通貨のどれもが金の裏付けを持たない時代が始まった。

FIAT MONEY ERA

金本位制なき世界 --- 法定通貨（フィアット）の時代

現在の通貨は、金にも銀にも裏付けられていない。政府の法的強制力（法定通貨として受け取りを義務づける法律）と、中央銀行への信頼だけが通貨の価値を支えている。

フィアットマネーの利点は明確だ。経済成長に合わせて通貨供給量を柔軟に調整できる。金本位制の下では不可能だった大規模な金融緩和や量的緩和が可能になった。

しかしその代償もある。通貨の発行に物理的な制約がないため、政治的な誘惑に負ければ、通貨の価値は際限なく希薄化する。

1971年以降、主要通貨の購買力は一貫して低下してきた。1971年に1オンス35ドルだった金価格は、2024年には2,700ドルを超えた。ドルの購買力が77分の1以下になったことを、金が静かに記録し続けている。

WHAT CHANGED

何が変わったか

金本位制の採用で国際貿易の信用基盤が確立。離脱後は政府の裁量で通貨供給量を調整できるようになった。

「お金の価値は何に裏付けられるか」の答えが、金から信用へ変わった。

LEGACY

今に残っているもの --- 金が安全資産とされる理由

金本位制は終わった。しかし金は今も「安全資産」として買われ続けている。

- 各国の中央銀行は、外貨準備の一部として金を保有し続けている（世界全体で約36,000トン）
- 地政学リスクが高まるたびに、金価格は上昇する

- インフレが進むとき、実物資産としての金への需要が高まる
- フィアットマネーへの信頼が揺らぐとき、金は「最後の通貨」として機能する

金が安全資産であり続ける理由は、金本位制の記憶が人類に刻まれているからだ。「紙幣は政府の約束に過ぎないが、金は金だ」という感覚は、数千年の歴史に裏打ちされている。

ビットコインが「デジタルゴールド」と呼ばれるのは偶然ではない。供給量に上限がある、中央管理者がない --- これは金本位制が提供していた「価値の裏付け」を、テクノロジーで再現しようとする試みだ。

FOR INVESTORS

投資家にとっての意味 --- 通貨の価値は何に裏付けられているか

投資家にとって、金本位制の歴史から得られる教訓は明確だ。

- 通貨の価値は永遠ではない。制度は変わり、通貨の購買力は長期的に低下する傾向がある
- 現金を持ち続けることは、フィアットマネーの減価リスクを取り続けることと同義だ
- 金・株式・不動産など実物資産は、通貨の購買力低下に対するヘッジとなる
- 通貨制度の転換点（金本位制離脱、ブレトンウッズ崩壊）は、資産価格の大変動を伴う

「お金とは何か」という問いに対する答えは、時代とともに変わってきた。その変遷を知ることは、今の通貨制度の本質と脆弱性を理解することにつながる。

KEY TERMS

関連用語

金本位制

通貨の価値を一定量の金に固定する制度

兌換紙幣

金や銀との交換が保証された紙幣

不換紙幣（フィアットマネー）

金属の裏付けを持たない、政府の信用のみで流通する紙幣

金平価

各国通貨と金の交換比率

ブレトンウッズ体制

ドルを金に固定し、各国通貨をドルに固定した戦後の国際通貨体制

ニクソン・ショック

1971年にドルと金の交換停止を宣言した出来事

SDR

IMFが創設した国際準備資産（特別引出権）

高橋是清

金本位制離脱と積極財政で日本を世界恐慌から救った大蔵大臣

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

投資は自己責任です。このサイトの内容は情報提供を目的とし、投資助言ではありません。